

報道関係者各位

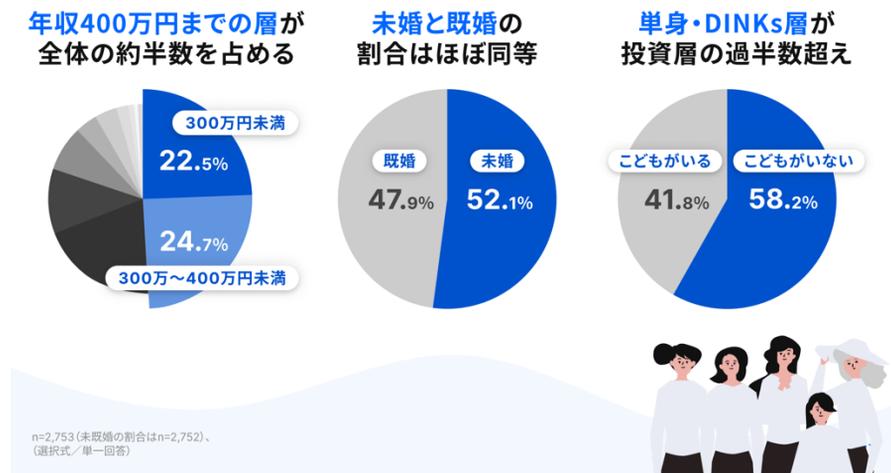
2026年3月4日（水）
株式会社GA technologies

AI不動産投資のRENOSY、国際女性の日を前に 「働く女性の投資意識調査」を実施

～働く女性の53.3%が現在投資を実施、30代は6割超えの結果に。単身層は「趣味・旅行」、子育て層は「教育資金」とライフステージごとに最適化する投資スタイルへ～

株式会社GA technologies[GAテクノロジーズ]（本社:東京都港区、代表取締役 社長執行役員 CEO:樋口 龍、証券コード:3491）が運営するAI不動産投資「RENOSY（リノシー）」は、3月8日の「国際女性の日」を前に、投資意識調査を実施しました。20代～50代の働く女性5,161名に対して行ったところ、過半数（53.3%）がすでに投資を実践していることが判明しました。本リリースでは、この投資を実践している女性たち（以下、「投資派女性」）の実態を年齢やライフステージの観点から分析し、その結果をお知らせします。

投資派女性の特徴



◆ 調査結果のポイント

- 働く女性の過半数が投資を実施、30代では6割を超える結果に。幅広い層で資産形成への関心が広がる
- 主な投資先は「投資信託」・「国内株式」・「生命保険」、ライフステージに合わせたポートフォリオを選択
- 将来の投資対象に「金・プラチナ」・「不動産系投資商品」へ興味が集まる。資産形成への積極性は年代とともに変化
- 資産形成の目的はライフステージとともに変化。20代～30代の単身・DINKs層は「今」を、子育て層は「将来」を重視

◆ 調査背景

「国際女性の日」は、1975年に国際連合によって毎年3月8日と制定されました。ジェンダー平等の実現や女性の地位向上を目指す活動を、世界各地で称え合う日となっています。

一方で日本は諸外国と比較して、男女間での賃金格差が大きく、家事・育児などの「無償労働時間」におけるジェンダー格差も大きな課題と言われています（※1）。さらに女性の平均寿命は87.71歳と男性（81.56歳）よりも長く（※1）、女性にとって将来の生活への備えは、より深刻なテーマとなっています。

ブランドビジョン「不動産による資産形成を、あたりまえにする。」の実現を目指すRENOSYでは、オーナー同士の交流の場を継続的に開催してきました。昨年実施した女性オーナー限定の交流会では、「気軽に資産形成について知りたい・学びたい」、「同じように資産形成をしている女性と交流を持ちたい」という声を多くいただき、資産形成に関する知識だけではなく、“語り合う場”や“仲間”が求められていることが分かりました。

そこで“投資派女性”の実態を明らかにし、自分らしい資産形成を考えるきっかけになればと考え、「働く女性の投資意識調査」を実施しました。

（※1）内閣府男女共同参画局「女性活躍・男女共同参画の現状と課題」（令和8年1月発表）

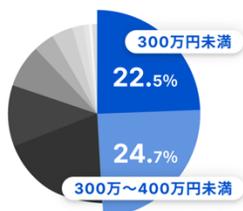
https://www.gender.go.jp/research/pdf/joiseikatsuyaku_kadai.pdf

◆ 調査詳細

（1）働く女性の過半数が投資を実施、30代では6割を超える結果に。幅広い層で資産形成への関心が広がる

投資派女性の特徴

年収400万円までの層が全体の約半数を占める



未婚と既婚の割合はほぼ同等



単身・DINKS層が投資層の過半数超え



n=2,753(未婚の割合はn=2,752)、
（選択式/単一回答）



はじめに20代～50代の働く女性5,161名に対して投資を実施しているか尋ねたところ、53.3%（2,753名）の人が投資をしていると回答し、過半数が何らかの形で資産形成を行っていることが分かりました。

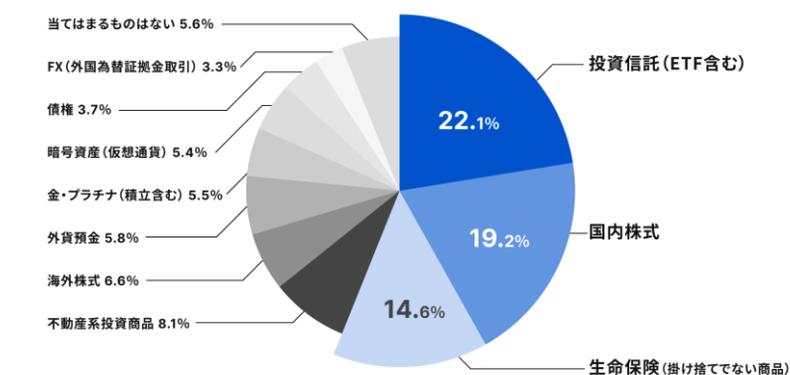
年代別にみると、30代～50代の各世代においては実施率が5割を超えています。特に30代では60.6%と最も高く、50代は54.5%、40代は52.0%、20代は45.9%と続きます。

さらに“投資派女性”を詳しく分析すると、投資実施者の47.2%が年収400万円未満でした。また、世帯別では未婚者が52.1%と半数を超え、単身・DINKs層（※2）は全体の58.2%に上ります。これらの結果から年収や世帯層を問わず、幅広い層の女性が資産形成へ関心を寄せており、等身大の給与水準の中で資産形成が行われていることがうかがえます。

（※2）単身層とは「未婚・子どもがいない」層、DINKs層とは「既婚・子どもがいない」層を指します。

（2）主な投資先は「投資信託」・「国内株式」・「生命保険」、ライフステージに合わせたポートフォリオを選択

現在投資をしている商品 （選択式/複数回答）



（回答者数=2,753）

RENOSY

次に現在実施している投資商品を尋ねたところ、「投資信託（ETF含む）」が22.1%と最も多く、「国内株式」が19.2%、「生命保険（掛け捨てでない商品）」が14.6%と続きました。

各ライフステージごとに投資先の傾向を分析すると、単身層の女性は上位3つの投資商品に集中している一方で、子育て層（※3）は多岐にわたる商品へ投資していました。これは将来の教育費や不測の事態などライフイベント特有のリスクを想定し、資産の分散化を図ったと考えられます。

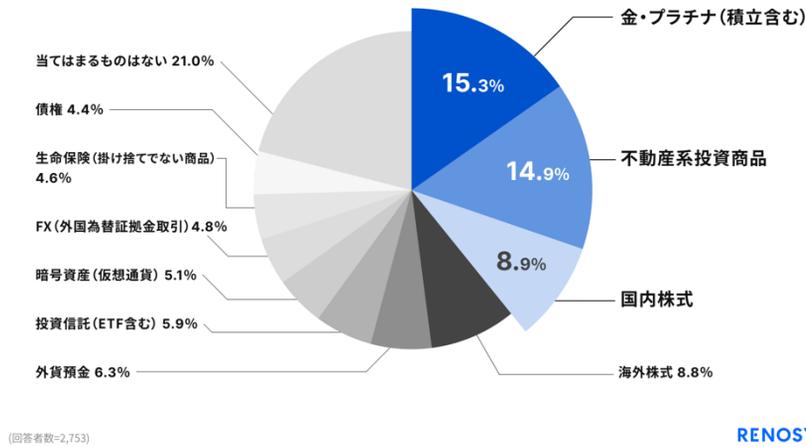
一方で、単身層やDINKs層においては、現在のポートフォリオを維持しながら、自身のライフスタイルに合わせて着実に資産形成を行っていることがうかがえます。

（※3）子育て層とは「子どもがいる世帯（未既婚不問）」を指します。

（3）将来の投資対象に「金・プラチナ」・「不動産系投資商品」へ興味が集まる。資産形成への積極性は年代とともに変化

さらに、将来興味のある投資商品を尋ねたところ、「金・プラチナ（積立含む）」が15.3%で最多となり、次いで「不動産系投資商品」が14.9%、「国内株式」が8.9%となりました。「金・プラチナ（積立含む）」や「不動産系投資商品」は近年の価格高騰（※4、5）といった市場動向が背景にあると考えられます。また、「金・プラチナ（積立含む）」については、貴金属やジュエリーなどを通じ、女性の生活において実物資産が身近な存在にあることが寄与していると推測されます。

将来の投資対象として興味がある商品 (選択式/複数回答)



RENOSY

年代別の特徴では、全投資商品に対する関心度は20代が他の世代よりも高く、将来の資産形成に対して積極的な姿勢がうかがえます。

一方50代のDINKs層および子育て層（現在は、子育てをしていない方々が対象）は、「当てはまらない」と回答している割合が約4割に達し、他の層と比較して高い結果となりました。これは、子育てがひと段落したり、定年退職を見据えたりする時期になったことで、今の資産を着実に守り、育てることを意識したフェーズにいと考えられます。

(4) 資産形成の目的はライフステージとともに変化。20代～30代の単身・DINKsは「今」を、子育て世帯は「将来」を重視

		老後の生活資金	将来への 漠然とした不安	こどもの教育資金	趣味・旅行のため
単身層 回答者数1,433名	20代	46.7%	50.0%	17.4%	38.0%
	30代	55.0%	49.2%	8.5%	27.0%
	40代	74.2%	51.1%	7.6%	22.2%
	50代	78.6%	48.7%	2.1%	22.8%
DINKs層 子育て層 回答者数1,303名	20代	45.9%	43.2%	32.9%	23.3%
	30代	53.1%	44.6%	41.3%	29.2%
	40代	66.8%	48.5%	33.5%	25.7%
	50代	77.4%	41.6%	10.2%	22.1%
子育て層 回答者数1,152名	20代	42.7%	42.7%	40.9%	27.3%
	30代	50.8%	40.1%	46.0%	27.2%
	40代	61.4%	43.3%	40.4%	26.3%
	50代	76.5%	41.9%	11.8%	22.5%
単身層 DINKs層 回答者数1,601名	20代	47.5%	49.5%	16.6%	35.6%
	30代	56.3%	51.7%	11.8%	29.0%
	40代	75.3%	53.5%	3.2%	21.0%
	50代	79.4%	48.4%	0.7%	22.5%

※回答の一部を抜粋しています。(選択式/複数回答)

最後に資産形成を行う目的を尋ね、ライフステージと年代別で比較しました。

すると、全年代において「老後の生活資金」「将来への漠然とした不安」が上位を占めていることがわかりました。さらに各ライフステージごとの特徴をみると、単身層やDINKs層の20代および30代において、「趣味・旅行」という回答が他の層より高い傾向にありました。これらの層では、将来への備えと並行して、自身の経験や充実感につながる「自己投資や体験（コト消費）」を大切にしながら資産形成に取り組んでいることがわかります。一方でDINKs・子育て層では「こどもの教育資金」が大きな目的となっており、特に子育て層の30代では46.0%に達しています。総務省の調査（※6）でも50代で教育費支出がピークを迎えるというデータがあり、早い段階から家族の将来を見据えた準備を進めていることがうかがえます。50代以降は「こどもの教育資金」を目的とする割合が減少しており、ライフステージの変遷に伴って、資産形成の優先順位が柔軟に変化していくことが読み取れる結果となりました。

◆ まとめ

本調査により、働く女性の過半数（53.3%）がすでに投資を実践しており、資産形成への関心は一部に限らず幅広い層の女性たちへ広がっていることがわかりました。さらに“投資派女性”は未婚や既婚、こどもの有無といった背景にかかわらず、自身の環境に合わせて投資目的を柔軟に選ぶ姿から、それぞれのライフステージに寄り添った資産形成のあり方がうかがえました。

このように一人ひとりに最適な資産形成が求められるなか、RENOSYではブランドビジョン「不動産による資産形成を、あたりまえにする。」の実現を目指し、あらゆるライフステージに寄り添った資産形成に関する情報を今後も発信してまいります。

（※4）Johnson Matthey「PGM market report」P6、Figure2（2025年5月発表）

https://matthey.com/documents/161599/509428/PGM_Market_Report_25.pdf/5f4e4078-8e9a-3c96-d334-9d14da9de094?t=1747663939434

（※5）国土交通省「令和7年地価公示の概要」（令和7年3月発表）

<https://www.mlit.go.jp/totikensangvo/content/001877216.pdf>

（※6）総務省統計局「令和6年全国家計構造調査 家計収支に関する結果 結果の概要」P8（2025年12月19日発表）

<https://www.stat.go.jp/data/zenkokukakei/2024/pdf/gaiyou1219.pdf>

◆ 調査概要

調査期間：2025年10月22日（水）～2025年10月27日（月）

調査パネル：株式会社GA technologies調べ、株式会社ジャストシステム Fastaskを利用

対象：20代～50代の女性（専業主婦・学生を除く）

回答者数：5,161人 有効回答者数：2,753人

調査方法：インターネット調査

※端数処理のため、構成比の合計は100%とならない場合があります。

※本プレスリリースに記載されている会社名・団体および製品・サービス名は、各社の登録商標または商標です。

※本内容をご紹介や引用いただく際は、出所を明示していただきますようお願いいたします。

記載例：RENOSY調べ「働く女性の投資意識調査」

◆ AI不動産投資「RENOSY（リノシー）」

「RENOSY（リノシー）」はテクノロジーを活用したAI不動産投資サービスです。購入・管理・売却をワンストップで提供することで安心・簡単・最適な不動産による資産形成を実現し、運用効果を最大化します。東京商工リサーチが行った調査では、投資用不動産における売上実績（*1）・買取実績（*2）ともに全国No.1を獲得しています。

（*1）株式会社GA technologies「AI不動産投資のRENOSY、投資用マンションおよびアパートの売上実績で全国No.1を獲得」（2025年3月11日発表）

https://www.ga-tech.co.jp/news/dbv19it2v_h611/

（*2）株式会社GA technologies「AI不動産投資のRENOSY、投資用不動産の買取実績で2年連続全国No.1を獲得」（2025年12月22日発表）

https://www.ga-tech.co.jp/news/b_p8unvt3m2nfikd/

◆ GAテクノロジーズ概要

社名：株式会社GA technologies

代表者：代表取締役 社長執行役員 CEO 樋口龍

URL：<https://www.ga-tech.co.jp>

本社：東京都港区六本木3-2-1 住友不動産六本木グランドタワー40F

設立：2013年3月

事業内容：

- ・AI不動産投資「RENOSY」の開発・運営
- ・SaaS型のBtoB PropTechプロダクトの開発

主なグループ会社：イタンジ株式会社、株式会社神居秒算、株式会社スピカコンサルティング、RW OpCo, LLCなど計30社 ※他、RW OpCo, LLC以下に28社